



2024年 5月 15日 担当 虻川

原油が反落、原油需要の鈍化懸念で 金は続伸

15日朝方の国内商品先物市場で、原油は反落して取引を始めた。取引量が多い2024年10月物は1キロリットル7万6900円と前日の清算値に比べ680円安い水準で寄り付いた。前日発表された4月の米卸売物価指数（PPI）の前月比での上昇率が市場予想を上回ったことを受け、米インフレの高止まりが意識された。米国で高水準の金利環境が長引けば米景気が抑制され原油需要が鈍るとの見方から、国内原油先物に売りが優勢となった。

石油輸出国機構（OPEC）は14日に公表した月報で、2024年と25年の世界の石油需要の増加見通しを据え置いた。発表内容を受けた値動きは限定的となっている。

金は続伸。中心限月の25年4月物は1グラム1万1868円と前日の清算値を62円上回る水準で取引を始めた。14日の米長期金利の低下を受け、金利がつかない実物資産を裏付けとする金の先物の投資妙味に着目した買いが入った。

白金は続伸。中心限月の25年4月物は1グラム5219円と前日の清算値を179円上回る水準で寄り付いた。一時5284円まで上昇し、中心限月として13年2月以来11年3か月ぶりの高値を付けた。需給の逼迫懸念を背景とした買いが続いている。



2024年 5月 15日 担当 虻川

円相場が上昇 一時 156 円台前半 実需の買い観測

15日午前の東京外国為替市場で、円相場は上昇している。10時時点は1ドル=156円41～42銭と前日17時時点と比べて4銭の円高・ドル安だった。10時すぎに156円31銭近辺まで上げ幅を広げた。国内輸出企業などによる実需の円買い・ドル売り観測が円相場を押し上げた。

15日は事業会社の決済が集中しやすい「5・10日（ごとおび）」にあたる。10時前の中値決済に向けては「ドル売りがやや強かった」（国内銀行の為替担当者）との声が聞かれた。輸出企業は受け取った外貨を特定の日にまとめて円に換える傾向がある。

朝方は円売りが目立ち、円相場は9時すぎに156円55銭近辺まで下げた。14日発表の4月の米卸売物価指数（PPI）は市場予想を上回り、米インフレの高止まりを示した。日米金利差が開いた状態が長引くとの見方が引き続き円売り・ドル買いの材料になっている。15日発表の米消費者物価指数（CPI）など、重要指標の発表を前に取引は低調だ。円は対ユーロで下落している。

10時時点では1ユーロ=169円18～21銭と、同43銭の円安・ユーロ高だった。ユーロは対ドルで上昇している。10時時点では1ユーロ=1.0817ドル近辺と同0.0031ドルのユーロ高・ドル安だった。米長期金利の低下でユーロ買い・ドル売りが優勢となり、円売り・ユーロ買いにつながった。



ウメモト インフォメーション



2024年 5月 15日 担当 虻川

フェノール国内大口価格、5月3%高

合成樹脂などの原料となる工業薬品フェノールの国内大口価格が上昇した。三井化学などが決める5月分の価格は1キログラム当たり394.2円と、前月比13.3円（3.5%）高い。

値上がりは4カ月連続で、2022年7月に付けた過去最高値まであと5円ほどに迫った。原料のベンゼンの国内想定価格が上昇したほか、生産に使う重油の価格も上昇した。

日経新聞



2024年 5月 15日 担当 虻川

ベンゼンのアジア価格、5月1%高 5カ月連続

工業薬品などの原料となる基礎化学品ベンゼンのアジア価格が5カ月連続で上昇した。指標となるENEOSの5月の契約価格（ACP）は、前月比15ドル（1.4%）高い1トン1085ドルで決着した。

ガソリン需要の高まりで、アジア市場では4月もベンゼン需給の引き締めが続いた。ガソリンの添加剤にもなるベンゼンは、ドライブシーズンを迎える米国向けの輸出が堅調。ベンゼンのもとになるトルエンのガソリン向け供給が増え、ベンゼンの供給も絞られた。

今後については、「欧米市場との値差が広い状況が続いており輸出需要が強い」（業界関係者）ことから、ベンゼンのアジアのスポット価格はしばらく高止まりする可能性がある。一方、川下のポリスチレン需要の弱さなどを考慮すると、価格上昇には一服感も出ている。

ACPを円建てに換算した日本国内の想定価格も上がった。5月分は1キログラム175.7円と同7.8円（4.6%）高い。値上がりは4カ月連続。4月以降、急速に円安が進んでいる影響で、アジア価格以上に円建ての上昇率が大きい。ポリスチレンなど合成樹脂価格の押し上げ要因となる。



2024年 5月 15日 担当 虻川

BYD が初のピックアップトラック メキシコにまず投入

中国の電気自動車（EV）大手、比亞迪（BYD）は 14 日、メキシコで同社初のピックアップトラック「シャーク」を発表した。同社によると中国以外の海外で新車を発表するのは初めてで、メキシコ市場に投入した後で南米や東南アジアなどで販売拡大を目指すと思われる。

北米を統括する BYD アメリカのステラ・リー最高経営責任者（CEO）は「ピックアップはとても重要なカテゴリー」と述べた。同社はメキシコに中米初の生産拠点開設を検討している。初めての海外発表会の場所にメキシコを選んだ理由については「ピックアップ市場が大きく成長している」ことを挙げた。

エンジンを併用するプラグインハイブリッド車（PHV）タイプの航続距離は 840 キロメートル。約 5.7 秒で時速 100 キロメートルまで加速できる馬力や、声で操作できるディスプレイなど利便性をアピールした。

メキシコシティ近郊で開かれたこの日の発表会には販売店関係者らを含む約 1000 人が集まり、発表会終了後の新車試乗にも長い列ができた。ただ、ピックアップの大市場でもある米国市場での展開には逆風が吹き続けている。

米バイデン政権は中国製の EV に対する関税を現在の 4 倍の 100%に引き上げる方針を示している。中国製の EV はほとんど流通していないものの、低価格を武器とする同社にとって米国は長期的に避けて通れない市場ではある。

メキシコに生産拠点を設けるのも、将来は米国向けの輸出拠点として活用したい思惑があるとみられる。ハリスコ州など中部から北部で検討しているとみられ、すでに開設を表明しているブラジル工場に続き、中南米で生産能力を拡充する。

同社はシャークを当面はメキシコ市場で販売するとし、価格はグレードによって 89 万 9980 ペソ（約 840 万円）～96 万 9800 ペソと発表した。登壇したリー氏や BYD メキシコ幹部は、1 時間超の発表会で米国市場への言及を避けた。

米政府の意向を汲み、メキシコ政府が同社など中国の自動車メーカー向けにインセンティブとして用意していた補助金を凍結した可能性も浮上している。11 月の大統領選挙をにらみ、米国では民主、共和両党が中国向けの厳しい姿勢を競っている。中国製 EV の北米での事業拡大には当面、逆風が吹き続けそうだ。

日経新聞